

## 長い目線で、暮らしをつくる

Builder：菱田工務店 Place：御代田町 Family：夫婦、子ども2人

ベルギーの伝統的な民家スタイルを日本の大工の技で再現した、素朴さと温かさ滲む住まい。野菜やお米や味噌など、家族で食べるものはできるだけ自分たちでつくる暮らしを選んだご家族を訪ねました。



家族が食べるものを自分たちでつくる暮らしにあこがれて

この場所に土地を見つけて家を建てる前、家族は長野県南部の駒ヶ根市に暮らしていました。お子さんに自然の中で成長して欲しいと願ったからです。まず奥様とお子さんが引っ越し、東京で仕事をしていたご主人は週末に合流する二拠点生活が3年続きました。そして、お嬢さんの就学を機に東京へのアクセスが便利な御代田町へ移ります。その折に東京の家を引き払い、家族4人そろって信州での生活が始まりました。

御代田町のこの家でKさんが暮らし始めて2年が経ちました。庭には、新築してまっさきにつくった畑に加え、料理に使用したいときすぐ摘めるようハーブ園を整え、外で食事するための炉をこしらえ、サウナも据えました。リビング・ダイニングの大きな開口からほぼ段差なしで庭へ出られるので、「内と外はほぼ同じ感覚」と毎日を楽しんでいるそうです。

ここで根を張って暮らしていくと決めて、いやそれよりずっと前から、夫妻には憧れの暮らしがありました。家族が食べる物を



A 丸太をフレーム状に組み空間を構成する。無垢の木のもつ素朴さ、荒々しさ、温かさがそのまま生きている。 B\_キッチンもヨーロッパの田舎の民家を思わせる。シンクの天板にはモールテックスを使用。 C\_ヒンメリもこの家の梁に掛かっていると、ごく自然で当たり前のインテリアに見える。 D\_漆喰の壁を正方形に切り取ったピクチャーウィンドウには外の森が映る。 E\_寝室もラスティックな雰囲気に。



G

F\_築2年なのはずっとこの場所にあるように景観に馴染んでいる。リビング・ダイニングと庭との間に段差や敷居はなく、屋内と屋外に一体感がある。 G\_バーベキューなどに使う炉はご主人が自分で掘り、石を組んでつくった。家の手前にあるのはサウナ。 H,I\_庭ではハーブも栽培している。料理に使いたいときは、キッチンからすぐ庭に出て摘んでくる。

F

H

I



自分たちでつくって暮らすこと、毎日の中で何かを育てながら暮らしをつくることです。子どもたちにもその姿を見せたいと思いました。今の彼らには、それがどういうことか分からないかもしれない。「でも大人になった時、原風景的に残っていたら」と。

昨年からは隣の市に田んぼも借りて、完全無農薬の米づくりを始めました。

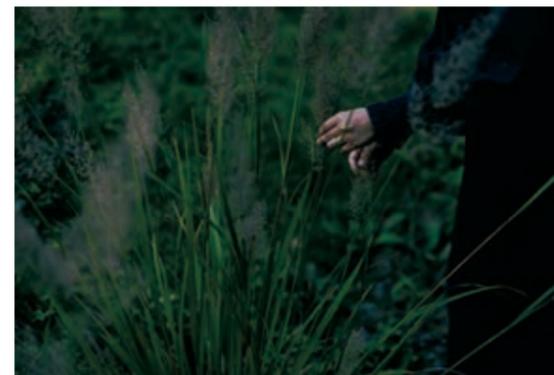
自然と折り合いを付けながら  
生きるベテラン農家に憧れて

米づくりのやりがいについてご主人に聞くと、「田植えや稲刈りの時より、むしろ夏、毎週のように草取りをしている時にじわじわくる」と言います。無農薬だから草も元気に伸びる。週末はそれを抜くのが仕事で、こうした地道な作業を積み上げて1年分のお米がもたらされる。そして収穫を終えた田をおこし、1年にわたる土と人の働きをゼロに戻した時もまた胸に迫るものがあるのだとか。

農業は雑草や虫や病気に向き合うだけではありません。自然相手だから天候にも左右されます。条件はいつも均一ではないから、ベテラン農家は自然と折り合いを付ける知恵や技術を身に付けています。駒ヶ根に越した時、そんな農家の「生きる力」をリスペクトしたKさんは、それを持たない自分を素直に受け入れました。

以前は、事前に立てた計画のもと均一の成果を反復して出すことが、圧倒的に正しいとされました。自然を相手にする今の暮らしとは全く違う価値観のもとで、生きていたのかもしれない。

御代田町からなら東京へ行くのに新幹線が使えます。リモートワークを組み合わせたら、向こうに住まいがなくてもこれまで





J  
K | L  
M | N

L\_1階の床はモルタルの土間敷きにして床暖房を採用。家具は夫妻が大切にしてきたアンティーク。  
K\_土間の床は愛犬が歩いても気にならない。 L\_壁の一部にレンガを配したのはインテリアとしても素敵で、蓄熱効果もある。 M\_2階は三角屋根の勾配を利用した造りで、天窓からは光がたっぷり注ぐ。 N\_サウナの後で水風呂に浸かるご主人。桶は馴染みの古道具屋で購入。外壁の雰囲気にもびつたり。

を複数重ねて空間を構成しています。屋内にも外観にも素朴な温かみが滲み出ているのは、木材の素性を見極め、曲がりのある材さえ生かし切る知恵と技術を同社の大工がもっているからです。その姿は、万一不測の事態が生じてみくろみ通りにことが運ばなくても、これまでに積んだ経験と磨いた感覚で、しなやかに状況へ応じていくベテラン農家の姿にも重なります。

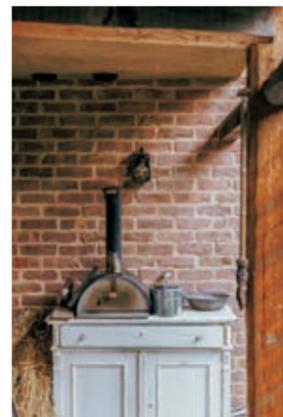
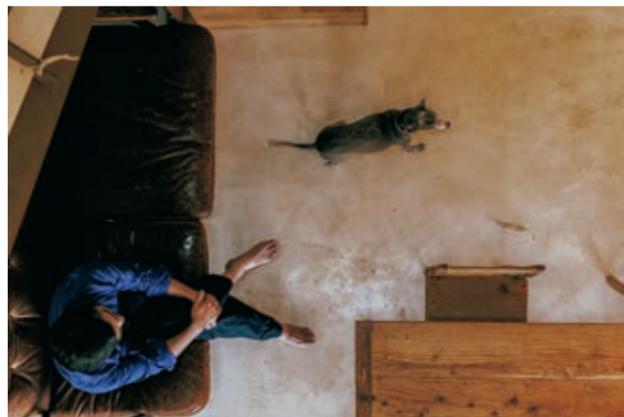
昔ながらの知恵や技術を尊びながら、それは懐古趣味とは違うとKさんは言います。「人間も含め自然界は均一ではないところに本質があり、だから面白い」。ぼらつきに出合った時、「エラーが生じるのも面白い」。生じたエラーにうな垂れてすべてを諦めるわけでも、状況を力づくでねじ伏せるでもなく、次のエラーを回避しようと試行錯誤

し、いろんな術を身に付けながら生きていくのがまた楽しい。

発酵食品づくりも始めた夫妻は、今年自分たちで初めて収穫した大豆で味噌を仕込みます。「この先、ヤギや鶏を飼いたいし、雨水を溜めて池もつくりたい。暮らし全体を循環させるという理想にはまだほど遠くてブツ切れ状態ですけど」

「歩みは遅くても自分たちにできることを一つずつ増やし、それを暮らしや地域のコミュニティに役立てていきたい」

暮らしをつくることを夫妻は長い目線で考えています。時間をかけて熟成していくことを楽しみながら。自然と折り合うお手本のような家にも、たくさんの気付きをもらいながら。



の仕事が続けられます。ただ、御代田と都会との「地続き感」は、ややもすると、あちらの世界から距離を置こうと移住した心や体を、強い力で引き戻そうとします。

家族の食べ物を自分で作り、暮らしをつくる営みは、フィジカルとメンタルの重心をこちら側に置き、都会とは違う価値観を貫く試みでもあるのです。

暮らし全体を循環させる理想へできることを一つずつ増やして

菱田工務店で建てたこの家は、ベルギーの伝統的な民家スタイルであるティンバー(丸太)フレームの家を再現したもの。太い丸太で柱や梁などの骨格を組み上げ、これ



OWNER Kさん

#### POINT 1 信州に暮らしてよかったこと

山に囲まれ、人も穏やか。憧れていた自給自足の暮らしに向けて、一歩ずつ歩み始められたこと。

#### POINT 2 家づくりでよかったこと

新築なのに周囲の風景や心身にもすぐに馴染み、ずっと暮らしてきたかのような趣であること。内と外の一体感。

#### POINT 3 先輩としてのアドバイス

自分たちが本当にしたいこと、自分たちにとって本当に重要なことを大切にしてください。

菱田工務店  
埴科郡坂城町中之条 1683-17  
0268-82-8876  
<https://hishidak.com>